

# さざんか

第86号、2008

年12月

平成もとうとう20年が終わってしまいました。10年ひと昔、と考えるともうふた昔が過ぎてしまったことになります。早いものですね。昭和の64年までにはまだまだです。そういえば、さすがに明治生まれの人が少なくなってきたのを実感します。日本独特の年号ですけど、昭和世代からだんだんと平成世代に移っていくのでしょうか。

海の向こうの遠い国の破たんした住宅ローン問題が、我が国の派遣社員の解雇につながるというなんか風が吹けば桶屋が儲かる式みたいな理屈が現実問題として重くのしかかっている年末になりました。不況問題で少しかすみがちですが、今年は医師不足問題でも当院はずいぶん揺さぶられました。相対的に医師が少ないのも事実ですが、実質は公的病院の勤務医師不足なのですが、それに対する対応として医学部の定員を増やすとか、小児科の診療報酬を上げるとかちょっと的外れとしかいいようがない対策しか打ち出されておらず、当分は嵐の中での地域医療が続きそうです。応援いただいている地域の方々に感謝いたします。

ただ、ピンチはチャンスという前向きのとらえ方をすると地方の病院でも大学の派遣のみに頼らずに地域医療に情熱を燃やす医師を集める良い機会かもしれません。

世界に類をみない超高齢化社会を迎えるこれから、医療もとうぜん変わるのだと思います。ただ、長生きすることだけが目的の医療から、日々を充実して生きることができるときの医療への変化が必要です。ぼけたり、寝たきりになって何年も生きる長寿社会は、むしろある意味不幸なのかもしれません。元気に長生きし、社会貢献もできるような長寿社会こそ意味のある長寿社会ではないでしょうか。地域でのコミュニケーションの再構築も長寿社会では必要ではないかと思います。支え、支えあう仕組みがもう一度必要なのではないだろうか、と年の瀬を迎えて思いながらの年末でした。

---

俳句 西屋敷喜美子

---

小春日や伊佐市となりて洋洋と  
杖持たず試し歩きの 小春かな  
身に染みる伊佐の寒さや 容赦なく

## 病院からのお知らせ

- \* インフルエンザの予防注射は11月4日から開始しております。(12月28日まで)市町村から届いた書類を忘れないようにお持ち下さい。
- \* 神経内科外来は火曜日が鹿児島大学からの応援医師、それ以外は高橋医師の担当になります。
- \* 毎月第3金曜日の血液外来は前院長の野村紘一郎医師の担当になります。その他肝臓病外来、糖尿病外来(月、金:福重医師)の専門外来も開設しております。
- \* 4月から研修医が当院で1年間の研修を開始しております。米澤英理医師です。よろしくお願いたします。
- \* 10月から脳神経外科常勤医がいなくなっております。鹿児島大学病院の医師による外来は週2回開設しております。火曜日と金曜日です。お間違えないよう。
- \* 骨密度、測ってみられましたか?ご希望の方はいつでもできますので、各科窓口でおたずねください。適切な治療で骨粗しょう症の進行を予防できることがあります。骨密度を上げるお薬を服用している方は、骨密度が上昇したかどうか確認してみてもいかがでしょうか。骨折予防は寝たきり予防につながります。骨年齢:あなたの骨は〇〇歳です。という表示が出ます。
- \* MRIで脳の検査をしてみませんか?目的は脳卒中や認知症(ボケ)の予防につながることがあるからです。また、脳動脈瘤の発見にも威力を発揮します。脳ドック以外でも脳神経外科または神経内科外来にてご相談ください。無症候性の病変(症状はないけど梗塞がある)がみつかると予防の治療を開始した方もおられます。寝たきりや認知症にならないためにも一度は検査されることをお勧めいたします。
- \* MRIは腰痛の検査にも威力を発揮します(脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニアなど)。あるいは肩こりや手のしびれの原因を探すのにも有用です。精密検査希望の方は神経内科外来にてご相談下さい。
- \* 新式のマンモグラフィーが導入されております。乳がん検査に威力を発揮いたします。乳がんが気になる方は外科外来へお申し出ください。
- \* 元気こころ館での「健康教室」は大勢の人が集まり好評でした。また来年も開催したいと思っておりますので、参加されなかった方はぜひ来年お越しください。

## 私の一言 宮園 辰夫

人が好きで考へ、人から好かれる為に悩み、一言多いぞと言われて80数年になりました。ただ、皆様方素晴らしい、仲間に囲まれ人生の面白さが生かされている有難さ、昨今は何事も求めなければ自分のものにならない。自分の力が自分存在が自分以外の人の支えになり、喜びになり、励ましになり、それが人の道ではないかと思えます。

辛いことが多いのは感謝を知らないから、苦しいことが多いのは自分に甘えがあるから、悲しいことが多いのは自分のことが分からないから、心配の多いのは今を懸命に生きていないから。年を取ったら出しゃばらず、憎まれ口に、泣き事に、人のかげ口は言わず、他人の事は褒めて、聞かれた時はやさしく教えてあげること。知っていることでも、あまり知ったかぶりをしない。知っていることはやさしく教へてあげる。なんでも勝つことよりも負けていた方が良く、いずれ世の中にお世話になる身であれば、若い者に花を持たせ、一歩さがっていた方が、何事も円満に行くと思う。

いつも感謝を忘れず、どんな時でも有難うと言うようにする。お金の欲は捨てたほうが良いですが、いくらお金を持っていてもあの世には持って行けない。あの人はほんとに良い人でしたと人から言われるように生きている内に徳を積んでいた方が良く、昔の自慢話は控えた方が良く、いくら頑張っても体がいうことをきかない。皆さんは違うけど私はそんな駄目です、わが子や孫や世間様に慕われる年寄りになりたいものです。ボケないように、頭の体操をして、何か趣味をもつとよいのですが、自分でも何も出来ないくせしていろいろ書きましたが読み流してください。

## 冬木立

しらじらと菫の花咲く道行きてひとつの思伝わる如し  
万羽超えし鳴行く鶴の声聞こゆ 星冴えて寒き海の辺  
長き旅終えし安堵の声ならん鶴鳴き行く夕空低く

## さつま狂句

めたぼかか <sup>ひと</sup>いお  
メタボ妻 我家でも似たような子が一人居つ

や <sup>あ</sup>  
安してもんじゃ 商品券で値が決まっ先生

ゆ  
言ちやならん悪り事と言へば本人が来て

## カラーマン1年を振り返る（カラーマンとその女）

そういえば、去年は忘年会の多さに辟易して疲れまくったのに、いつの間にか今年の忘年会シーズンも終わろうとしており、一年の長さの短さを実感している昨今である。私ごときが1年を振り返っても何の意味もないのだけど、カラーマンなりの1年を振り返ってみたい。（何言ってるのか良く分からないわ。意味ないならやめればいいのに、バッカじゃないの。）

まあ、「若輩ながらご指名ですので、一言ご挨拶を」というのと似たようなもので、本当は満更でもないのだよ。最近はやりのブログみたいなもんか。書いたものを誰かに読んでもらいたいというものだろうよ。マズローに言わせると、人間の欲求のうち、生理的なものの他に大きな要素を占めているのは人に承認されたいという欲求らしいからね。誰かに認められたいという欲求は、具体的にはたとえば子供が親に認められたい、思春期に友人に認められたいというものだろう。だから、認めてほしいという欲求を無視するネグレクトという行為は立派な虐待である。食べ物を与えないというのと同様かそれ以上の虐待であるともいえるだろう。

（そんなつまらないことばかり言っていたら1年を振り返るヒマがなくなるわよ）

そ、そうだな。では。今年は途中から大きく世界が変わった。文字通り、世界中が混乱に陥っているなあという印象がある。去年のサブプライムローン問題のときは、海の向こうのマナー人間の話かと思っていた。もちろん、グローバリゼーションの時代であるからある程度は日本にも影響があるだろうとは想像はできたが、ここまでとは思わなかった。

ここ鹿児島県でも派遣社員の人たちの解雇が話題になっている。アメリカの住宅ローンの焦げ付きが、鹿児島県の派遣社員解雇につながるといった人は少ないのではないだろうか。

そもそも給料生活者というのは、その日暮らしではないけれど、月給制度だからその月暮らしなのである。来月の給料が入ってこない、ということは本当に死活問題であろうと容易に想像できる。来月も再来月も給料がある、という前提で生活設計をしているわけだから、来月給料がゼロという現実は酷い。もともと「派遣」という形態から言うと、契約上からは会社の業績が悪くなると契約を解除するというのは、違反とかそういうことではないと思うのだし、景気が良い時はそれを容認してきた事実がある。正社員みたいに責任がないし、気楽に給料を貰っていたほうが良いという人もいたようだ。

（私たちもいつの間にかマナー人間に近くなっていたのかもね。働くということは、お金を得るだけじゃないプラスアルファがあるということを忘れていたのかもしれないわ。社会に貢献するとか、生き甲斐を求めるとかいう要素があるはずだわね）

一時、ホリエモン騒動の時に会社はだれのものか。株主のものか、社員のものかという議論があったが、それを詰めないまま恐慌を迎えてしまい結局会社の存続のために社員の首を切るということになってしまった。不況で会社がつぶれたら社員もくそもない、まず会社の存続こそが一番大切である、そのためには一部の社員の首を切らなければならないというのが今の理屈であろう。残った正社員が大きな声をあげて、派遣社員の解雇に反対することはないようだ。

(ワークシェアリングの考え方からいうと、派遣の人の首を切らずに、正社員の給料をカットして総人件費を減らすという方法もあるのよね。)

セーフティネットという仕組みのことを考えると、個々の企業に求めるものを国が肩代わりするのも大切なことであろう。一時避難的に1, 2年でも生活を保障する仕組みが必要である。国の借金がまた増える、と言ってそういう社会保障に反対する人もいるけど、国民を救うために国民に借金するのだから問題はないはずである。アメリカのように国債を日本や中国に買ってもらっているのとはわけが違うはずである。外国人に借金するわけではないのだ。

(でも、政治家の人たちは内閣支持率が篤姫の視聴率より低くなったとか、政界再編成とか、総選挙をいつするかとか、そういうことばかりで騒いでいるように見えるわ。なんか、本気で危機感がないように感じてしまう。)

人の幸せとはなんだろうか。人それぞれの価値観があり、人それぞれの追及の仕方があると思うが、しみじみ思うのが人間が社会を形成してその中で歴史を刻んでいく中では絶対に経済が必要であるということだ。経世済民。お金はなくてもいいかもしれないが、そのためには、しかし、最低限の住居とか食べ物は必要である。(そういう意味では最も安定した形態は農業なのかもしれないわねえ。それでも電気とか水道だとかインフラをつかうのにはお金が必要だわね。)

だが、現実の社会ではみんなが自給自足できるわけではないから、その媒体としてのお金は必要である。電気も車もない社会にはもう引き返せない。国の役割のもっとも大切なのは国民を幸せにするということであろう。そういう意味ではもっと今の国家はもっとやるべきことを見失わないようにしてほしいと切に思うのである。

今年1年を振り返って最後にしみじみ思ったのは、政治の無策ということであった。無策かつ無責任極まりなかった。

(まあ、非難するのは簡単だけど、実際やるほうは大変なのかもしれないけどね。それで国民の圧倒的的支持を得るようなカリスマ政治家がないのは確かだわ。こんな閉塞状況はでも、似非カリスマが出たりするから気をつけないといけないわね。遠くはヒトラーとか

近くはコイズミだとか・・・)

身近には、頸椎脊柱管狭窄症だけが、カラーマンの背負う病気だと思っていたのに、高血圧、高血糖、高脂血症などメタボの影が覆い始めた1年であったけど、半世紀以上生きてこれたことに感謝したい1年であった。

(半世紀てすごいけど、世界一の日本人の平均寿命からするとまだまだだね。何事かをなすにはまだ遅すぎるといことはないから、頑張りなさいな。あたしは、今年も幸せだったし、多分来年も幸せだわ。カラーマンがこの世にいる限り・・・)

---

### 仕事 (by 坂村真民)

---

頭のさがるのは  
年齢でもなく  
学問でもなく  
肩書でもなく  
その人がしている  
仕事である  
貧しい人のため  
苦しんでいる人のため  
希望を失った人のため  
体を張って  
生きている  
マザー・テレサのような人である

---

### 編集後記

---

激動の一年がようやく終わろうとしています。災いは他人事ではないということを身をもって味わった年でした。100年に一度の大不況で、世間では年の瀬を平和に迎えられない人たちであふれかけています。おそらく、もう1、2年は不況の真ただ中に居ることになりそうです。一方、お金だけの価値観から新たな価値観を見出すチャンスでもあります。お金のためだけに仕事をするわけではない、人を犠牲にしてお金儲けをしてもその価値は低い。そういうことを問い直すよい機会かもしれません。

さて、今年も「さざんか」をご愛読いただいてありがとうございました。来年がみなさまにとって素晴らしく充実した思い出の年になるように願って今年の編集後記を終えたいと思います。また、元気な姿でお会いできることを楽しみにしております。(KT)

---